

平成28年8月17日

平成28年度病害虫発生予報第5号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）	-	並
	紋枯病	やや少	並
	縞葉枯病	少	少
	トビイロウンカ（防除情報第9号）	やや少	並
	コブノメイガ	少	やや少
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第10号）	やや多	やや多
大豆	ハスモンヨトウ	並	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ）	並	やや多
	輪斑病	並	並
	ハダニ類（防除情報第11号）	やや多	やや多
アスパラガス	斑点性病害	並	並
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	並	並
	ナシヒメシンクイ	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類（技術情報第2号）	少	やや少
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	やや少
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.2%（1.1%）、発生圃場率は20.7%（14.7%）であった。（図1、2）
- イ 8月2半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は16.0%（0.1%）であった。

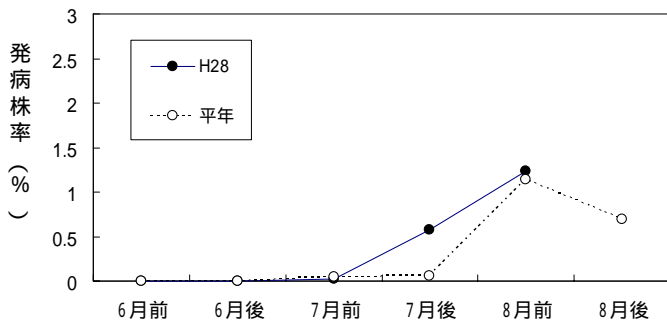


図1 葉いもち（普通期水稲）の発病株率の推移

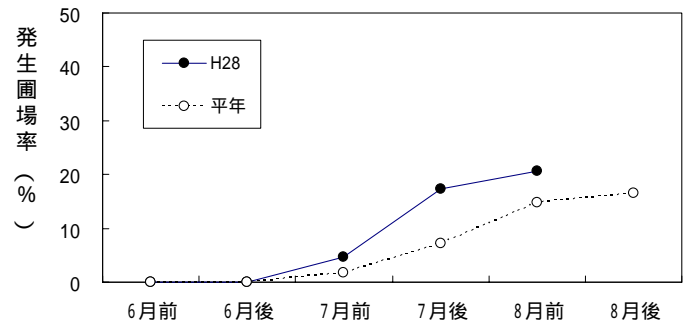


図2 葉いもち（普通期水稲）の発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では、穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.9%、発生圃場率17.7%)。

イ 8月2半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(8.3%)。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、株元に十分付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率21.9%)。

イ 8月2半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生は認めなかった(0.1%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.3頭)、発生圃場率は49.4%(65.0%)であった。

エ 8月2半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.3頭(0.3頭)、寄生株率は20.0%(18.0%)であった。

4. トビイロウンカ

平成28年8月17日付け、**病害虫発生予察防除情報第9号**による

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、食害株率は0.3%(8.3%)、発生圃場率は8.0%(62.6%)であった。

イ 8月2半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は36.0%(29.0%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

## 6. 穂吸汁性カメムシ類

平成28年8月17日付け、病害虫発生予察防除情報第10号による。

### 大豆

#### 1. ハスモンヨトウ

##### (1) 予報内容

発生程度 やや多

##### (2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は3.5%(4.5%)、株当たり虫数は0.1頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は53.3%(52.5%)であった。

イ 8月2半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生株率は6.0%(1.4%)、株当たり虫数は0.5頭(0.1頭)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや多く推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

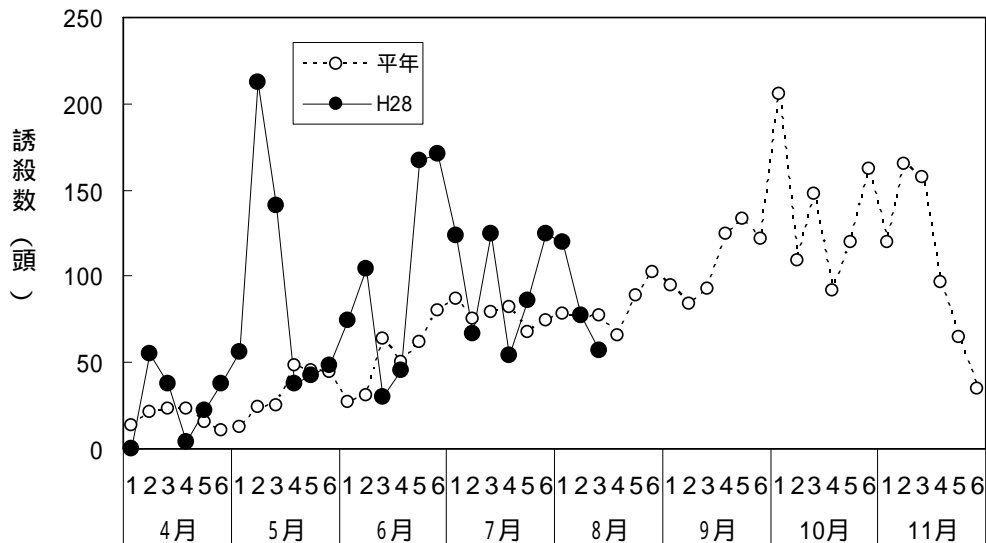


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

平年:H18~H27年の平均値(最大・最小値除く)

(月・半旬)

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

### いちご

#### 1. うどんこ病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率

0.05%、発生圃場率1.9%)。

(3) 防除上注意すべき事項

夏季の高温時は、白いカビは認められなくなることがあるが、病原菌は残存しているため、本圃へ病原菌を持ち込まないように育苗床での防除を徹底する。また、株冷処理する場合は入庫前に苗の選別と薬剤防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.6%(0.2%)、発生圃場率は9.1%(8.9%)であった。

イ 平成28年8月1日付け、**病害虫発生予察防除情報第8号**参照。

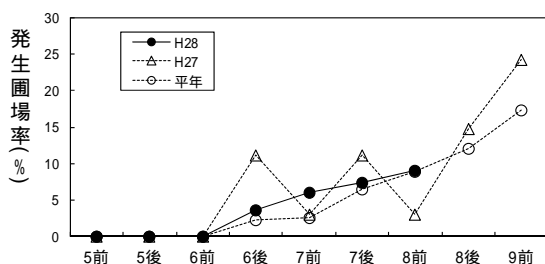


図 炭疽病 (*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

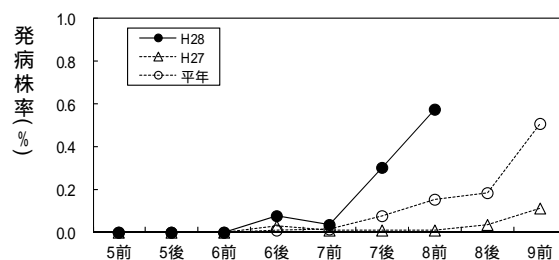


図 炭疽病 (*G.cingulata*) 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

定植前までの薬剤防除や定植苗の選別を徹底し、本圃に罹病株を持ち込まないようにする。また、株冷処理する場合は入庫前に苗の選別と薬剤防除を徹底する。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は8.9%(11.3%)、発生圃場率は51.5%(51.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉がぎした被害葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

4. ハダニ類

平成28年8月17日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**による。

アスパラガス

1. 斑点性病害

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病側枝率は2.2%(過去9ヶ年平均3.5%)、発生圃場率は45.5%(過去9ヶ年平均37.3%)であった。

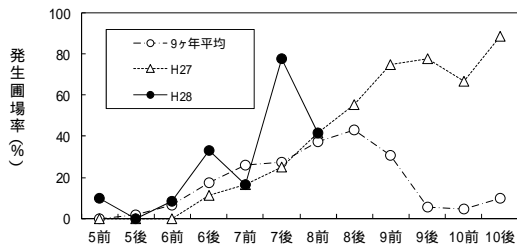


図 斑点性病害発生圃場率の推移

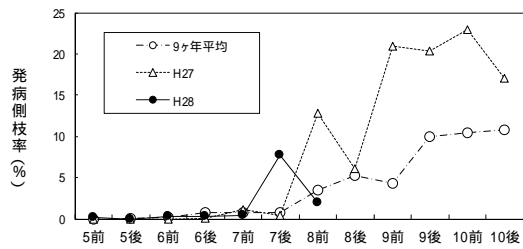


図 斑点性病害発病側枝率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 通風の悪い条件下で発生しやすいため、過繁茂にならないよう茎葉の整理等を行い、換気を徹底することで本病の発生抑制に努める。
- イ 罹病葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(11筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は3.8頭(過去9ヶ年平均12.7頭)、発生圃場率は63.6%(過去9ヶ年平均70.5%)であった。

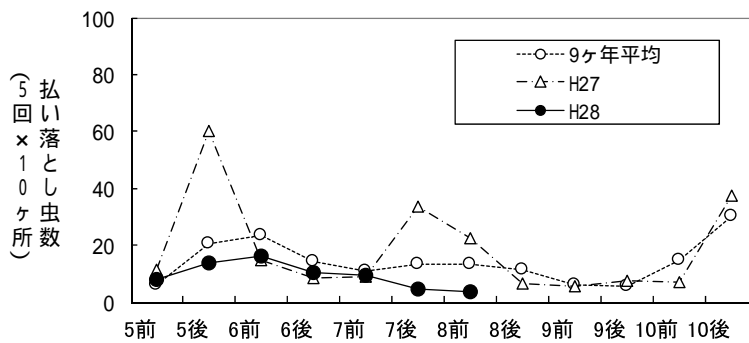


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移  
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤散布は株の内部まで十分付着するよう丁寧に行う。
- ウ 薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.3%)、発生圃場率は13.9%(13.3%)であった。発病果率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は5.6%(9.2%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は19.6%(6.7%)、発生圃場率は75.0%(42.7%)であり、一部に多発生の圃地を認めた。

(3) 防除上注意すべき事項

枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は15.9%(13.2%)、発生圃場率は72.2%(58.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。

ウ 病害虫防除所が実施している「ミカンハダニ薬剤感受性検定」の結果を参考にして薬剤を選定する。

(<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/pdf/kentei/H27mikanhadanikentei.pdf>)

### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は0.7%(1.4%)、発生圃場率は11.1%(21.0%)であった。果頂部の被害は認められなかった(被害果率 0.7%、発生圃場率 11.4%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

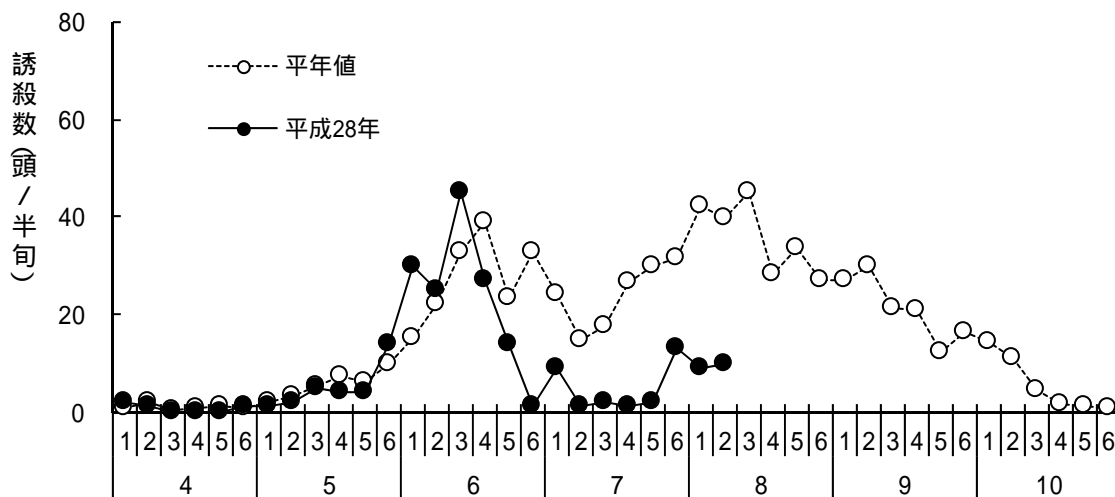


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表に示した発生ピーク予測日を参考にして適期に防除する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第4世代	<b>7/12</b>	<b>7/14</b>	<b>7/21</b>	<b>7/14</b>	<b>7/25</b>
" (前年)	7/20	7/20	7/30	7/22	8/3
" (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
第5世代	<b>7/29</b>	<b>7/31</b>	<b>8/8</b>	<b>7/31</b>	<b>8/12</b>
" (前年)	8/7	8/6	8/18	8/9	8/22
" (平年)	8/5	8/11	8/15	8/6	8/20
第6世代	<b>8/14</b>	<b>8/16</b>	<b>8/25</b>	<b>8/16</b>	<b>8/30</b>
" (前年)	8/24	8/24	9/8	8/27	9/14
" (平年)	8/22	8/29	9/2	8/23	9/9
第7世代	<b>8/31</b>	<b>9/2</b>	<b>9/14</b>	<b>9/2</b>	<b>9/20</b>
" (前年)	9/15	9/14	10/4	9/19	10/12
" (平年)	9/8	9/18	9/23	9/9	10/2
標高(m)	27	4	43	10	58

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温度により算出した。なお、積算には2016年8月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.4%(1.6%)、発生圃場率は40.0%(39.6%)であった。

### 2. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、枝葉への寄生を認めなかった(寄生枝葉率0.2%、発生圃場率5.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、7月以降やや少なくて推移している(図)。

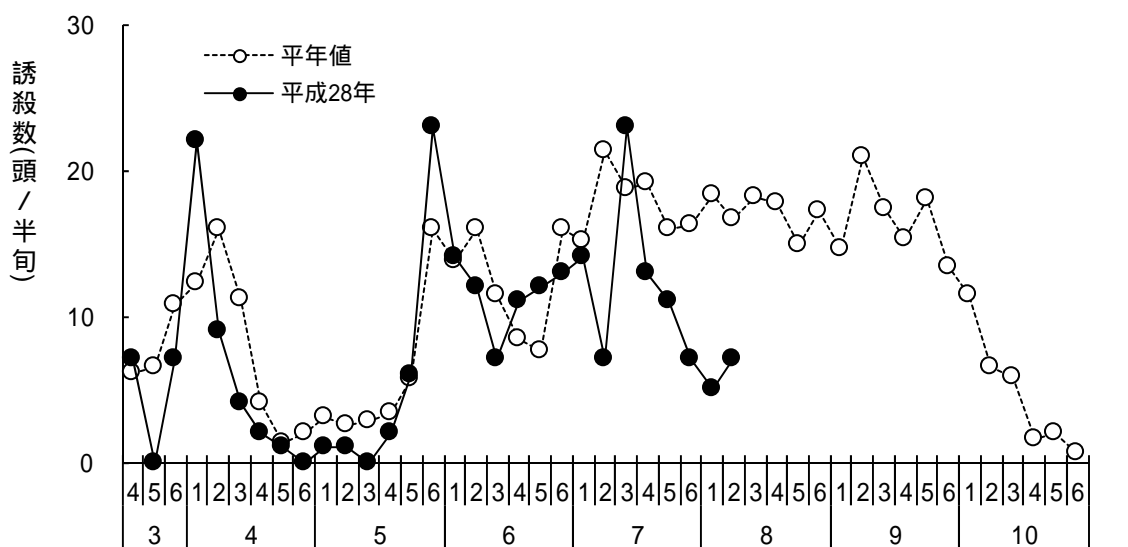


図 ナシメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

- (3) 防除上注意すべき事項  
せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

**果樹共通**

1. カメムシ類

平成28年8月17日付け、病害虫発生予察技術情報第2号による。

**茶**

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は2.3枚(3.6枚)、発生圃場率は55.0%(50.6%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は42.0頭(23.8頭)、発生圃場率は100%(90.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.8枚(0.1枚)、発生圃場率は20.0%(13.9%)であった。



イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

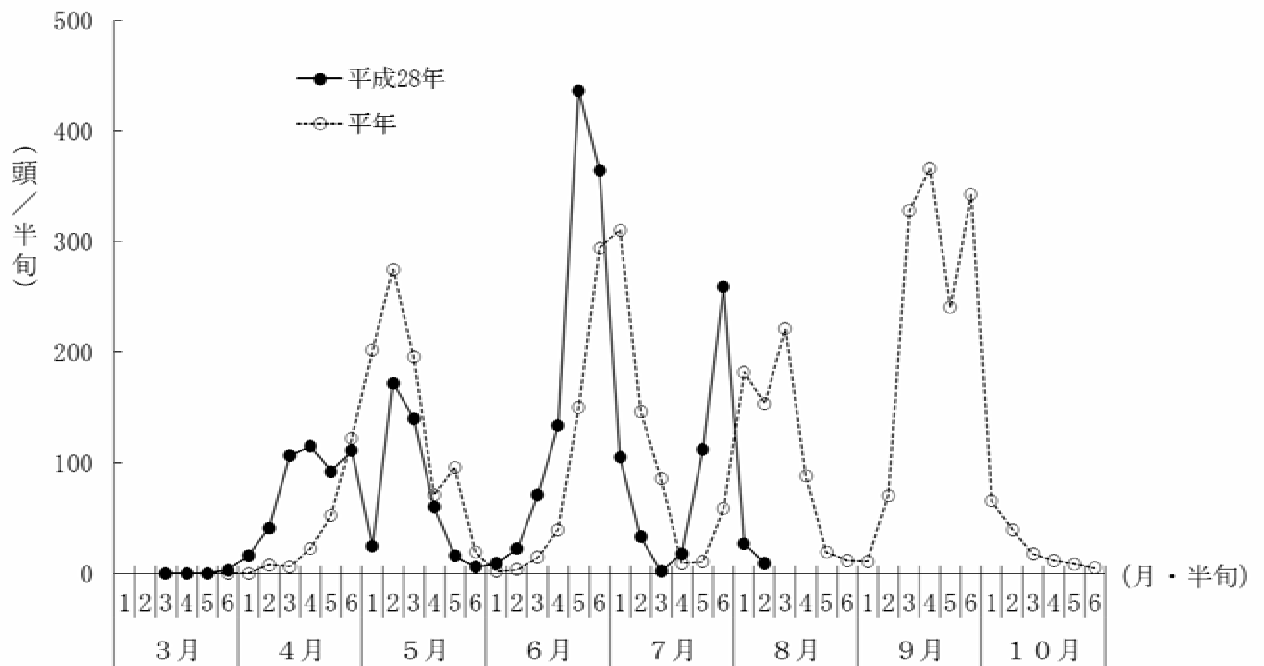


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

#### 4. チャノホソガ

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.3枚（0.1枚）、発生圃場率は10.0%（14.8%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

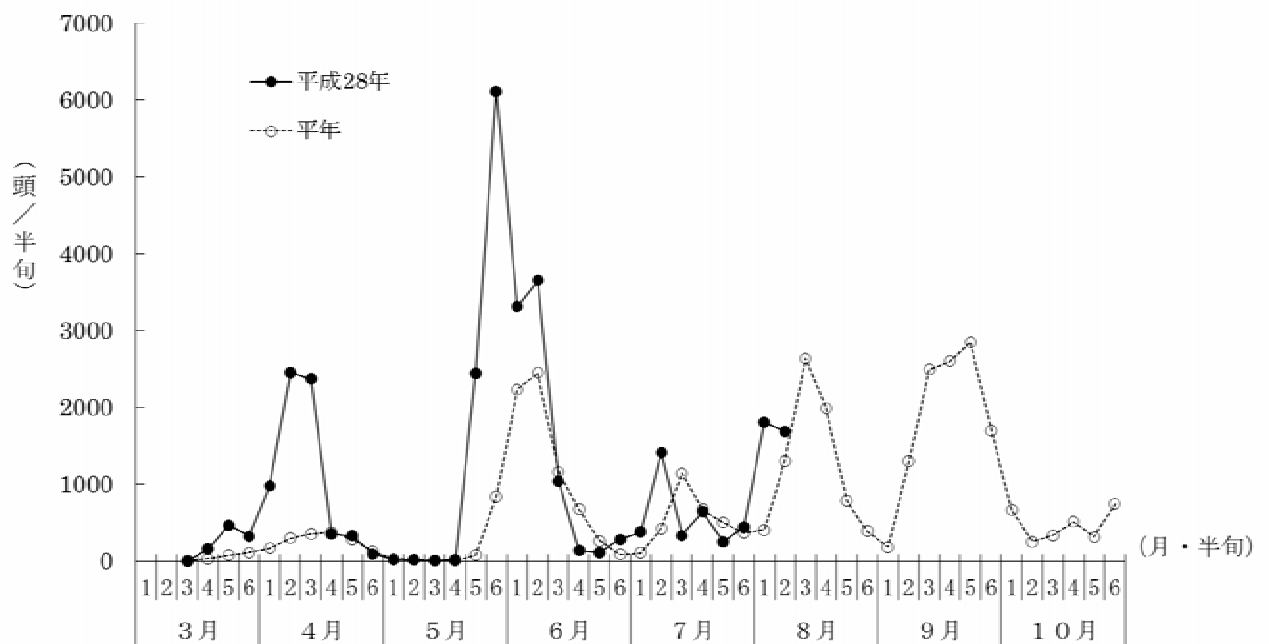


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

## 5. カンザワハダニ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は1.9%(0.5%)、発生圃場率は30.0%(15.2%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬液がかかるよう散布する。

## 6. チャノミドリヒメヨコバイ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.3頭(3.4頭)、発生圃場率は40.0%(57.0%)であった。

## 7. クワシロカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.3%(7.5%)、発生圃場率は30.0%(39.4%)であった。

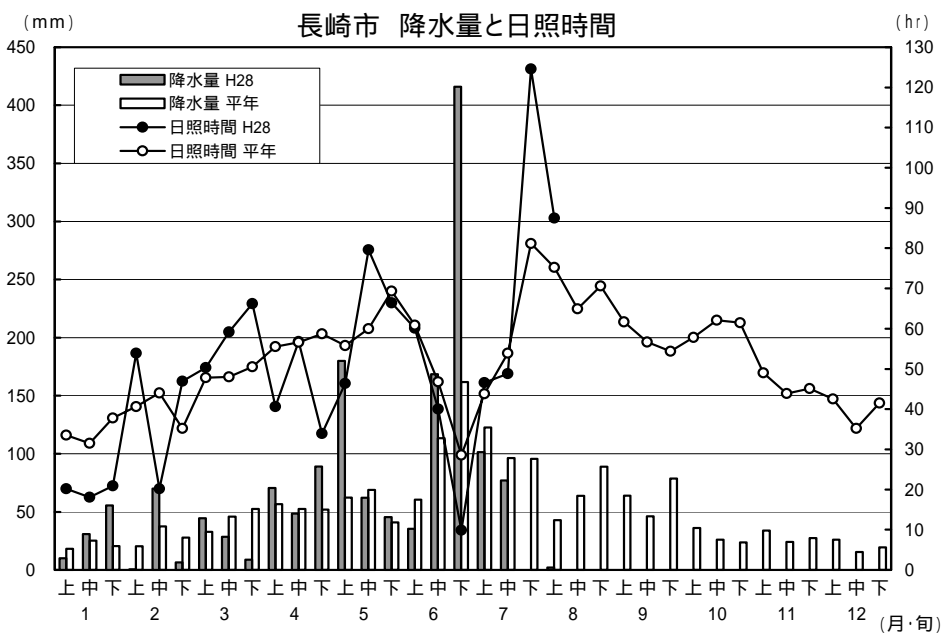
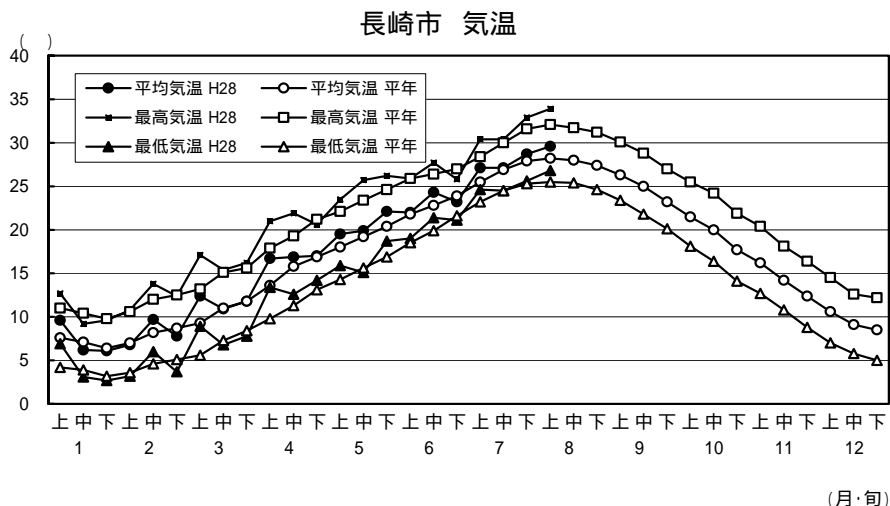
【参考】  
気象

(平成28年8月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	20	30	50

予報対象地域：九州北部地域

平成28年の気象経過 (長崎地方気象台)



6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

